

## 令和3年度 第2回新小山市市民病院地域医療支援病院運営委員会 会 議 要 旨

日 時 令和3年8月18日（水）午後1時30分～午後2時30分  
場 所 新小山市市民病院 2階 さくらホール  
出席者 委員長 副委員長  
委 員

### 1. 開 会

### 2. 挨 拶

### 3. 議 事

#### 1) 令和3年4月～7月の実績報告

- (1) 紹介患者に対する医療提供及び他医療機関への患者紹介の実績
- (2) 共同利用の実績
- (3) 救急医療の実績
- (4) 研修会の実績
- (5) 相談窓口の実績について
- (6) 在宅復帰率について
- (7) 質疑応答

#### ○歯科 CT について

- ・共同利用で、新小山市市民病院は歯科用の CT は置いているか。一般開業医でも歯科用の CT を入れているところもある。あれば歯科の先生方も利用を考えるのではないか。医科に比べて被ばく線量が1／10程度で座ったまま撮れる。
- ・新小山市市民病院に口腔外科がないので、今のところ歯科用 CT はない。需要が見込めれば、具体的に検討はできるかもしれない。

#### ○術前の歯科医療機関への予約について

- ・資料で、予約の相談が（水）・（木）に多いため、予約に至らない場合が約半数となっている、とあるが理由は何か。
- ・外来からの依頼が（水）・（木）が多い。歯科医院の休診日も（水）・（木）が多いので予定が合わない。別の曜日で歯科医院が空いていれば予約を取っている。
- ・今日は予約できないが、明日予約しておくので、予約日を後日連絡する

という対応はできないのか。

- ・患者さんのご希望があれば現在も対応している。かかりつけ医の場合、自分で予約取れるからと、当院からの予約を断る方もたくさんいる。ただ、病態のことを説明した方が、歯科医院が当院の手術日に合わせて予約を入れてくれるので、今後は気を付けて対応していきたいと思う。

#### ○月別救急患者数の紹介患者について

- ・資料に記載のある、月別救急患者数の紹介患者が昨年度よりも今年度は減っている。一方で患者支援センターを介した緊急患者紹介は増えている。令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で患者支援センターを介した緊急患者紹介は減った。令和3年度は回復してきたが、救急外来での紹介患者が減っているのはなぜか。
- ・小山地区夜間休日急患診療所からの紹介数は抜いていて、実際に他医療機関から紹介で来た件数となっている。令和3年度、救急外来での紹介患者が減っている理由はわからない。
- ・恐らく、救急外来を通らずに普通の外来で受診できるケースが増えたと思われる。昨年はなぜ救急外来を通る重症患者が多かったのか。新型コロナウイルス感染症疑いの患者は、コンテナでの診察が多く、救急外来を通る患者は少ないので、新型コロナウイルス感染症の影響というのはそこまで関係ないと思われる。詳しくは分析してみないとわからない。
- ・開業医の心理的なもので、昨年は自分のところでは対応できないということで、救急車で送っているのかもしれない。大変な時期だったので、救急車を呼べばなんとかなるだろうという意識が働いたのかもしれない。今は開業医の先生方も慣れてきて、色々とそれなりに対応している。

#### ○新型コロナウイルス感染症について

- ・7月の4連休が終わってから患者数が増加している。新規患者は7月1週目は30人前後だったが、4連休明けから1週間で約80人、次の週は約100人、今は1週間で約200人となっている。8月に入ってから8割～9割がデルタ株である。新小山市市民病院にはステージが上がるごとにベッド数を増やしてもらって、TMCしもつがと合わせて県南地域としては約35床となっているが、それを超えた新規患者数が出ている。40代～50代の重症患者がメインとなってきた。入院ベッド数とホテル療養数が追い付いていない状況なので、自宅療養が増えている。基礎疾患がある方、BMIが30以上の方など、リスクのある方に入院してもらい、それ以外は自宅療養でフォローをしている。県南地区では300人弱が自宅療養している。その内、小山は約200人で、原

則10日で解除となる。症状はないが、検査キットで検査をしたら陽性という方もいるので、医療が必要な患者さんに医療が提供できる体制にシフトできればと思っている。やはりワクチンを接種している方は陽性になったとしても重症化はしていない。高齢者はほとんど重症化していないのはワクチン接種の効果の表れかと思われる。また、抗体カクテル療法については新小山市民病院もTMCしもつがも始めている。やはり効果はある。同時に何十人もできるわけではないが、そういった部分が自宅でもできるようになれば随分違うと思う。ホテル療養で、何床かは酸素が使える設備を整えていく予定である。自宅療養が増えていて、地域の中で医療の目が入るように仕組みを考えている。その中で薬をどのように届けるか、薬剤師会と相談して進めていく。

#### ○新型コロナウイルスワクチン接種について

- ・優先度の高かった高齢者について、8月16日現在で1回目接種終了した方が90.68%、2回目接種終了した方が85.52%となっている。現在、集団接種をしているのが、基礎疾患のある方と障がい者手帳を持っている方、60～64歳の方である。予約状況については、30～59歳までの集団接種の申込を受けているところだ。12～29歳の若年に関しては今週20日（金）から集団接種の予約がスタートする。日程としては、11月末までに希望される方は全員接種が終わるよう日程調整をしている。新小山市民病院でも、夜間接種1,782人の集団枠で協力をしてもらう予定である。一方でワクチンの供給が不透明な部分があり、個別接種については小山地区医師会の先生方に協力をしてもらっているにも関わらず、逆にワクチンの上限も設けて、迷惑を掛けている。市長からも要望を出したり、県の職員もヒアリングに来てくれたりしたので、市の現状を伝えた。ワクチン供給を見ながら医師会の先生方と相談し、できるだけ早く接種できるよう取り組んで行く。

#### ○救急搬送の状況について

- ・1月～2月は減っていたが、3月から救急需要は増えている。新型コロナウイルス感染症に関しては保健所と連携をしながら対応しているが、報道などで出ているような状況が目の前まで来ているという現場感覚はある。実際に8月に入ってから、搬送先が決まるまで数時間がかかった事例があり、最近で言うと19回の照会、2時間現場滞在でやっと搬送先が決まり、足利赤十字病院に搬送した事例があった。この事例は、発熱が37.7℃（実際には新型コロナウイルス感染症ではなかった）、既往で統合失調症があり、施設で転倒して大腿骨頸部骨折で救急要請され

た。近隣の病院で受け入れできない理由として、発熱、ベッド満床、色んな諸事情があった中で、最終的に足利赤十字病院に搬送になった。少なからずこの地域にもひっ迫した状況がある。

- ・現在、当院整形外科が、手術枠の問題で、救急患者を受け入れる余裕がないくらい患者が溜まってしまって、受け入れを止めている状態になっている。先程の大腿骨頸部骨折の事例は、発熱というより、そちらの要素があったと思われる。ご迷惑をお掛けして申し訳ない。

## 2) その他

### (1) 令和2年度の決算について

令和2年度の決算について報告し、収支概要を委員に説明した。

最後に事務局より、次回の本委員会を令和3年11月17日(水)、午後1時30分から新小山市民病院さくらホールで開催することを案内し、閉会した。